

平成21年度事業実績

1. コーディネーター2名の採用

時期：2009年10月～2010年3月

活動内容：日本社会事業大学社会事業研究所プロジェクト研究員として山本（宮原）麻衣子氏（元国立身体障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科教官）及び井村（吉川）あゆみ氏（社会学修士、社会福祉士）を採用し、聴覚障害学生が受講する情報保障のコーディネート及び聴覚障害学生に対する支援体制の構築の業務に従事させた。

2. 情報保障提供者（パソコン通訳者・手話通訳者等）の講義への派遣

時期：2009年10月～2010年1月

活動内容：日本社会事業大学に在籍している聴覚障害学生（3年生1名、4年生1名）に対する情報保障付授業を行うため、下記のようにパソコン通訳者、手話通訳者及びノートイカーの派遣並びに学外遠隔通訳の利用を行った。

	10月	11月	12月	1月
学内パソコン通訳者	1講義 3コマ	2講義 4コマ	3講義 5コマ	2講義 3コマ
学内ノートイカー	11講義 35コマ	14講義 54コマ	12講義 23コマ	11講義 18コマ
学外パソコン通訳者	2講義 6コマ	7講義 17コマ	3講義 8コマ	2講義 7コマ
学外手話通訳者	5講義 12コマ	9講義 27コマ	5講義 18コマ	3講義 9コマ
学外遠隔通訳者	—	1講義 2コマ	1講義 1コマ	—

3. 聴覚障害理解促進のための研修の実施

開催回数：2009年10月～2010年3月

活動内容：聴覚障害学生を受け入れるにあたり、学生ボランティアやスタッフ等に対する聴覚障害や情報保障についての理解促進を図るための研修会を実施した。

- ・2009年12月19日 参加者 17名
- ・2010年3月29日 参加者 9名

4. 情報保障機器の整備

整備機器：プロジェクター1台、テレビ1台、ビデオカメラ1台

整備場所：日本社会事業大学

5. 単位互換等についての広報事業

- ・平成22年度から日本社会事業大学文京キャンパスで開講する日本手話による教養科目（単位互換制度）の広報のためのパンフレット（別添）の作成
- ・日本社会事業大学聴覚障害学生支援プロジェクト室の紹介パンフレット（別添）の作成

6. 聴覚障害学生対応の寮の準備事業

整備場所：東京都清瀬市上清戸2-12-19

整備内容：笹川医学医療研究財団所有のピースドミトリーを日本社会事業大学が借り受けて、聴覚障害学生等を受け入れる寮を平成22年度から開設するため、事前の準備として共有部分・各居室の清掃等の受入れ体制の整備を行った。

7. 大学のオープンキャンパスにおける高校生のために聴覚障害支援の説明コーナーの設置
10月及び11月

事業目標の達成状況：(目標の達成状況、事業成果、成功/失敗の要因を自己評価して下さい。)

これまでは学生のボランティアによるノートテイクのみであったが、専門の手話通訳者やパソコン通訳者が派遣されて情報保障が行われた結果、授業等の理解度が格段に増して、学習効果が顕著に現れた。

平成22年度から本格的に情報保障付講義の実施や単位互換制度を活用した日本手話の講義等を日本社会事業大学において日本財団の助成によって行うことを全国の高校に周知するための広報を行い、入学生の確保を図った。広報の時期が既に多くの高校生が受験校を決めてからの時期であったため、反応は高校2年生からが主なものであった。またろう学校では大学受験は念頭においていない生徒がほとんどで、受験への支援が必要であることを痛感した。次年度には高校生の支援にも力を注ぎたい(既に助成前から一度実施した塾は好評であった。)

日本手話による教養大学はネットワーク多摩の大学間連携の単位互換を中心に行うが、ネットワーク多摩の申込み前に述べ13名が複数の科目に申し込み、のべ41名の登録があった。

事業成果物：(作成した報告書・印刷物・ビデオなどの名称、部数を記入して下さい。)

- ・日本社会事業大学文京キャンパスで開講する日本手話による教養科目(単位互換制度)の広報のためのパンフレット 1000部
- ・日本社会事業大学聴覚障害学生支援プロジェクト室の紹介パンフレット 500部